



# 神宮前だより



## 言葉と心

校長 川島信雄

### 一つの言葉

- 一つの言葉でけんかして
- 一つの言葉で仲直り
- 一つの言葉で頭がさがり
- 一つの言葉で笑い合い
- 一つの言葉で泣かされる
- 一つの言葉はそれぞれに
- 一つの心をもっている
- きれいな言葉はきれいな心
- やさしい言葉はやさしい心
- 一つの言葉を大切に
- 一つの言葉を美しく

この詩は、校長室にいつも掲げられています。普段何気なく使っている言葉が、人間の心をいろいろと動かしていることに気付きます。あ

人の心を傷つけてしまふ場合もあります。そんな時「ごめんね。」という素直な言葉で、一瞬にして相手の心を和やかにさせます。特に、日本語は一つの言葉が様々な意味をもち、人の心を動かします。まさに、この詩のように一つの言葉は一つの心をもっているのです。

相手を理解するには時間がかかります。でも、この詩のようなきれいな心や美しい心をもつ子供が多くなれば、とてもすばらしい学校になります。本校の敷地には、様々な国の子供が生活しています。言葉も違い、文化も違います。互いを理解するには、時間がかかります。でも、本校の子供達は心配はいりません。差別をしたり、相手をけなしたりする子はいません。一人一人が認め合うことは、国籍を問いません。子供がどの国の子であるかが、子供は子供です。大切な宝なのです。一人一人の素直な成長を望むのは大人としての常識です。今年も、ここ神宮前より子供発の世界平和を発信していきたいと思えます。

さて、話は変わりますが、新一年生が二年連続三十名を突破しま

した。全校児童数も、百三十八名になりました。最初は、地域に在籍する児童数が激減し、一時はどうなるのかと心配しておりました。しかし、本校教職員、PTAの方々、地域の方々の懸命な努力があり、この結果につなげることができました。本当に嬉しく思います。着実に他学区にも、本校のよさが浸透していつか、本校のよさが分かります。今まで以上に責任を感じ、特色ある教育活動を展開していかねければならないと思っております。今年十一月には、研究発表会が予定されており、今までの研究の一端を皆様にもご紹介したいと思っております。今年度も教職員一丸となって頑張っていきます。

平成二十一年度

国立教育政策研究所指定

我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル校

平成二十一年度

渋谷区教育委員会研究推進校

## 四月の生活指導

元気よく

へんじ、あいさつしよう

三十名の一年生を迎え新年度がスタートしました。子供達は入学・進級した喜びで胸がいっぱいでしょう。

本年度も全校児童が仲良く安全な学校生活を送れますように「水車の子神小のやくそく」をぜひご家庭でもお子様と一緒にご確認ください。

本年度の重点項目は「へんじ・あいさつ・あとかたづけ」です。

昨年度、子供達は、大きな声であいさつしたり、進んで後片づけをしたりしていました。社会の中で人との関わりは欠かせません。そしてその関わりの一歩は、「へんじ・あいさつ」から始まります。

何事もそうですが、言われてからするのではなく、言われなくてもできる神小の子どもであってほしいです。

「いつでも・どこでも・誰でも」元気よく、気持ちのいいあいさつをして、一年を過ごしたいです。

本年度も、子供達が事故やケガのない毎日を過ごすことができますよう、ご理解とご協力をお願い致します。

※生活時程が変わりました。本年度より、始業時刻が五分早まりました。登校時刻もご確認ください。

(生活指導部)

